

2007年度 秋の研究集会 「演劇（芸能）の中の女性の表象」

11月23日（金・祝） 会場：沖縄県立郷土劇場	
18:30-	公演鑑賞受付 〔1F ロビー〕
19:00-21:00	かりゆし芸能公演鑑賞 第31回 かりゆし芸能公演 玉城流 翠扇会 重要無形文化財「組踊」保持者・沖縄県指定無形文化財「伝統舞踊」保持者・玉城流翠扇会家元、金城清一氏による組踊「執心鐘入」および琉球舞踊を鑑賞。

11月24日（土） 会場：沖縄県男女共同参画センター「ているる」	
10:00-	受付開始 〔大ホール〕
10:30	開会挨拶 天野文雄（日本演劇学会会長）・當間一郎（沖縄藝能史研究会会長）
10:45-12:00	特別対談 沖縄藝能史研究会企画 古典・新作組踊の女性像 ー組踊とは何かー 大城立裕（作家）×与那覇晶子（演劇評論） 組踊は、1719年、踊奉行・玉城朝薫(1684－1734)によって、はじめて尚敬王の冊封使歓待の宴席で上演された。「二童敵討」「執心鐘入」「銘苅子」「孝行之巻」「女物狂」、この朝薫の5番は、繰り返し上演され、8・8・8・6の韻律を基にした古典音楽、台詞、舞踊、所作で成り立っている楽劇の古典として重要な位置を占めている。その他、平敷屋朝敏(ちょうびん)、田里朝直(ちようちよく)などの作品を含め、琉球王朝時代におよそ70作品が創作されているが、その多くは仇討物である。 組踊に通底する思想は、儒教道德の忠、孝、義だが、古典組踊に登場する女性たち(母、娘、姉妹、乳母、継母)もまた例外ではない。その上女性たちは、貞節を要求され、地位や命は女性たちの依存する父母や夫、また社会規範・階層に依拠する。それゆえに自己犠牲や自我を捨てた営為がなされる。しかし「執心鐘入」の宿の女や「大川敵討」の乙樽(うとだる)のように強い女性も登場、又、仇討物が多い中で、母子の情愛の深さも強調される。一方、大城立裕氏の新作組踊の女性たちは、自己意志をもった個性が際立っている。ノロ、巫女(ゆた)、辻村遊郭のアンマー、じゅり、娼婦の登場は、象徴的である。それらの個性と琉球史のテーマを通して女性像や組踊の特徴について語り合いたい。 コメンテーター：幸喜良秀（演出家）
12:00-	昼食
13:15-16:00	シンポジウム＊ 〔大ホール〕 演劇（芸能）に見る女優の表象 〔13:15-〕 第1部 パネルセッション 北島角子(沖縄芝居実験劇場)・比嘉いずみ(劇団うない)・鈴木雅恵(京都産業大学)・林公子(近畿大学) 司会：与那覇晶子（沖縄大学地域研究所） 〔15:00-〕 第2部 講演「乙姫劇団と辻文化」 真喜志きさ子（琉球信仰史研究所主宰） 本シンポジウムは、日本の近代化と、沖縄の大和への同化の歴史と共に はじまった、沖縄芝居の特異性、および現在の位相について、広義の意味での「女優」(舞踊家や、花街や辻の芸能者を含む)の表象に焦点をあてながら、大和(特に京都を中心とする関西)と沖縄双方の視点から考察しようとするという研究の一部である。シンポジウムの前半では「沖縄芝居実験劇場」の代表で、山本安英賞受賞女優でもある北島角子氏、沖縄の女性歌劇団「うない」の若手男役比嘉いずみ氏を迎え、日本演劇学会会員と共に、広義の意味での「沖縄」演劇における、広義の意味での「女優」(花街や辻の芸能者を含む)の表象について討論する。後半では、「乙姫劇団」の子役からスタートした元女優で、信仰史研究家の真喜志きさ子氏の講演が行われる。

＊このシンポジウムは、文部科学省助成プロジェクト「世界の中の『沖縄』演劇ー女優の表象を中心とした考察ー」の一部としておこなわれます。

11月25日（日） 会場：沖縄大学	
9:30	受付開始
10:00-12:00	研究発表 分科会 A 〔2号館506教室 5F〕 《研究集会テーマ①》 司会：林公子（近畿大学） 〔10:00-〕 「河合ダンス」にみるモダンイズムと女性の表象 芝田江梨（大阪市立大学大学院後期博士課程） 〔10:40-〕 許容できる行為媒体ー組踊における女性の描写について フランセス・マンマナ （ハワイ大学大学院博士課程（ABD）） 〔11:20-〕 琉球舞踊における表情ー古典女踊りの中でー 大城ナミ（親泊本流親扇照志野の会会主） 分科会 B 〔1号館503教室 5F〕 《研究集会テーマ②》 司会：椋平淳（大阪工業大学） 岸田國士『古い玩具』試論ー房子とルイーズを軸とし 宮本啓子（早稲田大学大学院博士課程後期） アイルランドの“Hen House Boy”事件と男性劇作家による“母性”の再考 坂内太（早稲田大学） エリザベート変容 鈴木国男（共立女子大学）